

令和6年度病害虫発生予察注意報第1号

令和6年7月11日
山 梨 県

病害虫名：果樹カメムシ類

対象作物：果樹全般

1 内容

発生時期：平年並

発生量：多い

発生地域：全域

2 注意報発令の根拠

- (1) 暖冬の影響から越冬量が多かったと考えられ、春先からの発生量はやや多く、果樹全般で被害が認められた。
- (2) 7月上旬の定点調査地点におけるフェロモントラップへのチャバネアオカメムシ(写真1)の誘殺数は平年と比べて約3～6倍と多く、今後の多発が懸念される(図1)。
- (3) 病害虫防除員から果樹カメムシ類による果樹類への被害が平年と比べて「やや多い～多い」との報告が寄せられている。
- (4) 気象庁発表の関東甲信地方1か月予報(令和6年7月11日発表)によると平均気温は高く、降水量は平年並か多い見込みである。

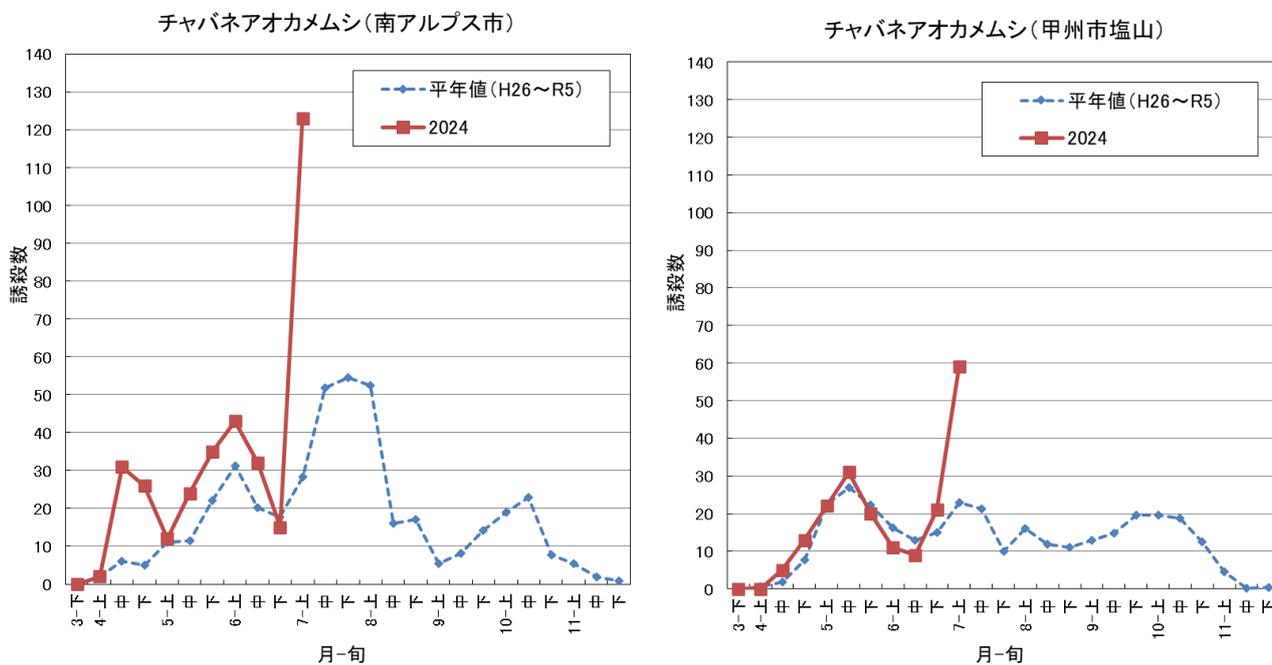


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移
(山梨県病害虫防除所調べ)

3 防除上注意すべき事項

- (1) 収穫期のモモ、ネクタリン、スモモ、ブドウの果実が加害される恐れがある（写真1・2）。
- (2) 特にシャインマスカットでは、袋をかけていても袋と果実の密着部分を吸汁する被害が見られる場合がある（写真3～5）。

参考：平成30年度果樹試験場成果情報

「収穫期のブドウ「シャインマスカット」におけるチャバネアオカメムシの被害」

<https://www.pref.yamanashi.jp/kajushiken/h30seika.html>

- (3) 果樹カメムシ類は日没前後に山間部から果樹園へ飛来するので、発生状況の確認については夕方～夜間及び早朝に園を見回り、夕方またはカメムシの動きの鈍い早朝に薬剤散布を行うと効果的である。
- (4) 飛来量は地域によって差があるので、発生状況に応じて地域ごとに一斉防除を行う。
- (5) 防除薬剤は表1を参照する。薬剤散布にあたっては、登録内容を厳守し、飛散防止対策を徹底する。

表1 カメムシ類に登録のある主な防除薬剤 (令和6年7月現在)

分類	RAC	薬剤名	適用作物名						
			希釈倍率、使用時期/本剤の使用回数						
			スモモ	モモ	ネクタリン	ブドウ	カキ	ナシ	リンゴ
合成ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	※※※ 3,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /2回以内	※※	3,000～ 6,000倍 3日前まで /2回以内	3,000～ 6,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /1回
		アーデントフロアブル	※※	2,000倍 前日まで /3回まで	2,000倍 前日まで /3回まで	※※	2,000倍 前日まで /3回まで	2,000倍 前日まで /3回まで	2,000倍 前日まで /3回まで
		スカウトフロアブル	※※	※※	※※	※※	1,500倍 7日前まで /5回以内	1,500倍 前日まで /5回以内	1,500～ 2,000倍 前日まで /5回以内
ネオニコチノイド系	4A	スタークル/ アルバリン顆粒水溶剤	※※※ 2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	※※	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	4,000倍 3日前まで /3回以内	※※	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内
		ダントツ水溶剤	2,000～ 4,000倍 3日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 7日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 3日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 7日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内

※スモモなど果実汚染、果粉溶脱が懸念される樹種では薬剤選択には注意する

※※作目登録はあるが、適用病害虫としての登録がない

※※※小核果類での登録



写真1 チャバネアオカメムシの成虫



写真2 モモの吸汁被害の様子



写真3 ネクタリンの吸汁被害の様子



写真4 シャインマスカットの吸汁被害



写真5 シャインマスカットの吸汁被害の様子
(拡大図)